

## もつと 知りたい 地域医療

第二十六回

町立下川病院 診療放射線技師 江口正裕



図③ 図④ 図⑤には、機器の写真と病室での撮影風景のイメージ写真を掲載しています。

### 一般撮影 フラットパネル技術 導入しています！

こんにちは、町立下川病院診療放射線技師の江口正裕です。さて、今回は病室で寝たきりの患者さんをX線撮影するポータブル撮影機器が、十七年の歳月を得て新規更新しましたので、その機能などについて説明させていただきます。

今までと何が違うの？

このポータブル撮影機器ですが、フラットパネルと

いう最新技術を搭載してお  
り、これまでよりも、より  
キレイのある鮮やかな画像が  
特徴です。  
また、機器の中にモニタ  
ー画面を搭載しているの  
で、患者さんのベッドの横  
で、患者さんの状態の把握が可能と  
なっています。病室の撮  
影のみに限らず、通常の撮  
影室においても活用してお  
ります。一般撮影にて、何  
か病変らしきものがあれば、  
X線CT装置にてより  
詳細に調べていく流れとな  
っております。



どんな撮影をしているの？

やはり一番多いのが胸部  
X線写真ですね。最も標準的  
な検査ですし、撮影優先  
順位は肺炎チェックとなっ  
ております。図①と図②を  
ご覧ください。図①が従来  
のデジタル画像です。紙面に  
て、違いをどこまで把握で  
きそうか、若干の不安もあ  
りますが、図②の画像は、  
よりキレイのある病変を発見  
し易くした、現在主流にな  
りつつあるデジタル画像で  
す。



### 皆様から寄せられた 質問の中から

#### CT & MRI どっちがどっち？

見た目もやや似ている装  
置かもしれませんね。トン  
ネルのような所に入れられ  
る検査と表現される方が多  
いです。現在ではかなり認  
知度の高い検査で、検査内  
容・病状等を説明してくれ  
る患者さんもおり、私も勉  
強になります。(笑)

X線CT検査とMRI検  
査では、互いに強みがあ  
りますし、ある疾患で双方ど  
ちらの機器も病態把握に強  
みを発揮してくれるケース  
も多々あります。

X線CT装置は放射線を  
用いているのに対し、MRI  
は磁気を利用してお  
ります。

大まかではありますが、  
脳出血・肺炎・骨の画像領  
域はX線CTの最大の得手

領域に対しても、神経、靭  
帯・脳梗塞早期の画像領域  
はMRIが得手領域かと思  
います。

当院では、X線CT装置  
を導入しておりますが、そ  
の最大のポイントは緊急性  
に優れるという点です。M  
RIと比較して約10倍近く  
の検査処理能力があり、こ  
の2つの機器での救急場面  
が第一選択になるかと思  
います。MRI検査は、その  
得手分野の疾患で、じつ  
に時間がかけられる場合に  
実施されることが多いよう  
です。もちろん、大変有効  
な検査であることも申し添  
えます。

ここ数年で病院の電子化、ネソトワーカ化が進み  
ました。地域中核病院との連  
携、遠くは東京にある遠隔  
画像診断支援体制の活用も  
可能となり、実際に稼働し  
ております。町民の皆様に  
とっては、必要とあらば医  
師の判断で下川に居ながら  
診療連携の恩恵に預かるこ  
とができますし、大きくラ  
イフスタイルを変えないで  
済むことはとても便利かと  
思いますが、無事で何もない  
かの際にはご活用していただ  
ければ幸いです。

終わりに



■お問い合わせ  
町立下川病院  
☎・★4-12039

